

F

A

B

レ

ポ

ー

ト

No8

2011.11.18

発行

～サポート室便り～ 

サポート室の取り組み・耳寄り情報などをお伝えします

**研究サポーターの利用申請を
随時受け付けています**

サポート室では、研究補助業務に従事する研究サポーターの配置を11月から開始しました。

利用対象は、以下に該当する本学の**常勤研究者**です。

男性研究者も利用できます。

- ・妊娠中の者
- ・小学校6年生までの児童を養育している者
- ・家族に要介護者または要看護者がいる者

その他支援内容や利用方法などの詳細についてはホームページまたはサポート室にてご確認ください。

月刊トピックス女性支援に関する事や
情報などをご紹介します**学会派遣支援について**

今年度は、15名の女性研究者へ学会派遣支援を行いました。【 国際学会 6名、国内学会 9名 】

来年度も、春季および秋季の2回に分けて、女性研究者学会派遣支援を行う予定です。

詳細が決まり次第ホームページ等でお知らせいたします。

第2回FAB キャリア交流会を行います

日 時：H23年12月6日（火） 15:10～16:00

場 所：事務局棟 第2会議室（旦野原キャンパス）

対 象：本学の学生、教職員

長崎大学の大井久美子副学長を迎え交流会を行います。

P i c k
u p

大分大学の教職員の方に登場していただき、女性研究者支援について、ご自身の事、これまでに経験してきたことなどをお話していただくコーナーです。

今回ご登場していただくのは……

教育福祉科学部 准教授 山崎 栄一さん**『 女性と防災 』**

今回は、「女性と防災」というテーマで書かせていただくことにした。自然災害に際して、女性は二つの側面を持っている。一つは、災害に対して脆弱性を有しているという側面であり、もう一つは、災害復興の場面においてキーパーソンとしての役割が期待されているという側面である。それゆえに、災害時要援護者としてのきめ細かい配慮が必要であると同時に、災害復興の場面において発言をし、活躍をする場を設けることが要請される。

筆者は2006年度に「大分県女性の視点による防災指針作成検討会議」のアドバイザーを務めたことがあった。メンバーは、県内で防災活動にあたっている女性によって構成され、男性は筆者1人というものであった。お話を伺う中で、防災が男女分業の顕著な領域であることを認識させられたが、何回かの検討会と現地見学を経て、「女性の視点からの防災対策のススメ」というパンフレットを作成することができた。当時の検討会議の活動内容に関する記事や成果物については、<http://www.eiichiyamasaki.com/area.html>において、論文（「防災分野における男女共同参画—大分県における取り組みを中心に」大分大学大学院福祉社会科学部研究科紀要第9号）は<http://www.eiichiyamasaki.com/chievements1.html>において、ダウンロードできるのでご参考いただければ幸いである。